

神の意志への承諾

「それは、わたしがこの方を知るためであり、また、この方の復活の力と苦しみの交わりとを知るためであり、また、この方の死にふさわしくされるためです。」

神の権威に従うという概念には、受け入れられた基準や型に従うという考えがある。キリスト・イエスを頭とする神の家族と、人類の中から贖われた「小さな群れ」を持つことは天の父の御心であり、彼らは最終的に栄光と誉れと不死を受ける。(ルカ12:32、ローマ2:7) このクラスの仕様は以下の通りである：“神は、多くの兄弟たちの中で最初に生まれた者となるように、前もって知っておられた者を、御子のかたちに造り変えるように定められました。”
ローマ8:29

キリストの熱心な信奉者たちは、このような高貴な報酬を得るための道には、自己否定、十字架を背負うこと、そして師の足跡に倣うことの過程が含まれるという聖書の証言を高く評価してきた。使徒パウ

口はこの関連で、次のように述べている。「兄弟姉妹よ、神の憐れみを考慮して、あなたがたのからだを聖なる生けるいけにえとしてささげ、神に喜ばれるようにしなさい。この世の型に合わせるのではなく、心の一新によって変えられなさい。そうすれば、神のご意志が何であるか、すなわち、神の良いご意志、喜ばれるご意志、完全なご意志が何であるかを試し、承認することができるようになる。ローマ12:1,2

忠誠心

忠誠とは、承諾によく似ている。そのような個人に対する部分的な同情とは対照的に、他者に対する忠実な忠誠を表している。信者は、世俗的な精神の持ち主と交わり、天の父に喜ばれる存在であり続けることはできない。彼らは主と義の原則に完全に従順でなければならない。キリスト・イエスは言われた。(ヨハネ18:36)

つまり、真のクリスチャンは、この "現在の悪の世" と結びつくことはできないということだ。(ガラテヤ1:4) さらに、私たちに敵対する勢力は、しばしば光の天使として現れ、惑わす。第2コリント11:14

「私たちの市民権は天にあり、私たちが努力しているのは、天の王国への豊かな入口を保証するためである。(ピリピ3:20) 偉大な敵対者の誘惑に対して妥協する態度では、何も得ることはできない。王の王に対する忠誠は、自発的で完全なものでなければならない。私たち（

）は、主であり救い主であることを知り、その知識に基づいて、主の大義の誠実さに全幅の信頼を寄せている。私たちの忠誠が完全であるべきなのは、私たちの王とキャプテンを愛しているからであり、彼や天におられる私たちの父を不愉快にさせることを考えると胸が痛むからである。

勇気

勇気もまた、神とその御心に従順な者に不可欠な資質であるが、それは自信から生まれるものであってはならない。自分の弱さを自覚している人は、天の父に信頼を置き、必要とされるあらゆる時に助けとなる恵みと力を求めるなら、勇気を持つことができる。(ヘブル4:16、箴言3:5,6) クリスマスが神とその隊長キリストを仰ぎ、彼らの力によって自分が強くされていることを悟るとき、その人は本当に勇気を持つことができる。イザヤ26:3,4

良き兵士として、私たちは戦っている大義に確信を持たなければならない。(2テモテ2:1,3)

奉仕している大義の正しさに対する私たちの信仰と確信は、私たちの救いの隊長に協力するための自由意志に基づく自己犠牲的な努力において、私たちの力と能力のすべてを呼び起こすほどに完全なものではない。(ヘブル2:10) クリスチャンの兵士として、私たちは、指導者が私たちにするよう求めることの妥当性について、精神的な予約を持つべきではない。神とキリストに対する私たちの信仰は完全なものであるべきであり、たとえ私たちがあることをするよう求められている理由が必ずしも理解できなくても、私たちが天の知恵によって導かれているという事実にも全幅の信頼を寄せることができる。ローマ8:28

このコースを成功裏に修了するための鍵は、天の御父の御心を行うことに自分自身を従わせることである。神の御言葉の学びを通して明らかにされる聖霊の影響は、私たちをすべての真理へと導き、私たちの人生に忠実に適用されるとき、正しい人格をもたらすでしょう。ヨハネ16:13

クリスチャンとして、私たちが神の御心にますます「変容」していく限りにおいて、「真理の言葉」の

聖めの影響力は、私たちが霊的に進歩することを可能にする。(ローマ12:2、ヤコブ1:18、ヨハネ17:17)しかし、時には、私たちの行動や信念を、必ずしも私たちが理解する神の御心や、ある事柄に関する聖書の教えとは異なる基準に合わせるように、内からも外からも圧力を受けることがあります。私たちクリスチャンは、個々に神に対して自分の責務について説明しなければならない。(ローマ14:12; 1コリント4:2) ですから、私たちは、他の人がどう考えるかによって必ずしも導かれるべきではなく、真理を自分のものとし、昔の高貴なベレヤ人たちがそうであったように、「すべてのことを証明し、良いことを堅く守りなさい」。1テサロニケ5:21; 使徒17:11

アンティオキアでの偏見

クリスチャンの交わりの中で、考えや行動を一致させようとする影響や、同胞の信者が私たちをどのように見るかを過度に気にすることについて考えるとき、私たちの心に力強い教訓がもたらされる。ガラテヤ2:11-

21で、パウロは、おそらく多くのユダヤ人クリスチャンから第一の使徒とみなされていた使徒ペテロを

叱責する必要があった時のことを語っている。ペテロが初めてアンティオキアに来たとき、彼は異邦人として生まれたキリスト教改宗者たちと自由に食事をした。その後、エルサレムからユダヤ人クリスチャンの一団が訪ねてきた。彼らはまだモザイク律法に基づく様々な儀式を守っていたようで、彼らが到着すると、ペテロは自分の行いがエルサレムとそこにいるユダヤ人の兄弟たちに伝わることを恐れて、異邦人の兄弟たちとの交わりをやめた。

バルナバたちはペテロに倣った。ペテロは、コルネリオの改宗に関連して、神が "偏見を示されない"ことをよく知っていた。(使徒言行録 10:34) それゆえ、無割礼の信者たちとの食事を拒否したのは誤りであり、モザイク律法が "信仰の義"よりも高いレベルの聖別を与えるものであるとほのめかしたのである。(ローマ4:13) パウロは、ユダヤ人クリスチャンはキリストの贖いの犠牲を信じる信仰に基づいて新しい立場に立ち、律法に対して死んでいることを指摘し、ペテロの偽善を非難した。従って、律法は誰も義とすることができないので、異邦人は律法の下に置くべきではない。ガラテヤ 2:14-21

もし、ペテロのような聖霊に育てられた教会の柱が、ユダヤ人の同胞たちが抱いていた不適切な信仰の影響に不当に屈し、神の明確な御心に従わなかったとしたら、私たちは今日、交わりの中で他の人々の意見に左右されやすいのではないだろうか。私たちが交わることのできる個々の教会、すなわちエクレシアは、私たちが召命と選びを確かなものとするために養われ、成長することができるように、天の父が備えてくださった特別な取り決めなのです。互いの学びにおいては、学んでいる内容の事実だけでなく、メッセージの背後にある精神も考慮すべきである。ローマ2:28,29; 7:5,6

たとえば、ヨハネの手紙第一3章14節には、「私たちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへと移ったことを知っています。兄弟を愛さない者は、死にとどまっているのです」。私たちが互いに接するとき、この聖句は常に心に留めておくべきものである。しかし、私たちはこの新しい被造物という宝を土の器の中に持っており、主に仕えたいと熱望しているのですから、時として、兄弟愛の他のメンバーとは異なる表現をすることによって、摩擦が生じる機会があることは明らかです。(2コリント5:17;

4:7)私たちは、肉による外見からではなく、神が私
たちを召されたように、私たちと同じように肉と闘
っている他の宝石たちも見つけ出しておられること
を信じ、その知識に基づいて行動し、愛の精神で私
たちを結びつけるものに集中しよう。サムエル記上
16:7、第二コリント10:7

キリスト教の自由

神の御心に謙虚に従うことは、"主はこう言われる
"という明確な裏付けがない真理の項目に関して、
クリスチャンの自由を行使することに関しても重要
である。私たち一人一人が行うべきは単なる推測の
問題ではなく、私たちの言いたいことを証明する聖
句が本当にあれば、それで十分なのです。ある場合
において、

、私たちが信じる表現方法と調和しない考えが示さ
れたなら、天の御父がどちらか一方のために問題を
明確にするように意図されるまで、私たちは自由に
兄弟たちに個々に話し、愛のうちに話し合うべきで
ある。いずれにせよ、考えの正確な一致を得るため
に力を行使すべきではなく、聖書が宣言しているよ
うに、"各人が自分の心において十分に説得される
ようにしなさい"。ローマ14:5

新約聖書の初期から、主の民の会衆はさまざまな場所に設立された。聖書は、このようなグループを設立するための指針を示している。(1テモテ3:1-7;

テトス1:5-9;

1ペテロ5:1-3)

長老であれ、助祭であれ、奉仕する者は、エクレシアの投票によって奉仕職に選ばれる。そのため、会衆をより高い権威として、また神の意志の指標として位置づけています。ある方針や実践に関して、クラスの判断が長老の判断と異なる場合、基本的な教義や道徳的な問題、良心に反する問題とは異なり、エクレシアの好みの問題であれば、長老はクラスの意志に従うべきです。一方、エクレシアが信頼する長老を選ぶという責任に則って、主は、会衆の投票によって特定の個人を選ばれた。従って、その長老が主のみこころを知り、忠実に行おうと努力していることに気づけば、それに比例して、その長老を支え、励ますことは、グループ全体の義務である。

パーティー精神

キリストのからだを構成する仲間同士の対抗意識、つまり党派精神は避けるべきである。私たちの主イエス・キリストの権威によって、親愛なる兄弟姉妹

の皆さん、互いに調和して生きるようにと訴えます。教会に分裂があってはなりません。むしろ、思いを一つにし、目的を一つにしてください。親愛なる兄弟姉妹たち、あなたがたの喧嘩について、クロエの家の何人かが私に話してくれました。あなたがたの中には、『私はパウロに従っている。他の人たちは、『私はアポロに従う』とか、『私はペテロに従う』とか、『私はキリストだけに従う』と言っています。キリストは派閥に分かれてしまったのか。私パウロは、あなたがたのために十字架につけられたのか。あなたがたの中に、パウロの名によってバプテスマを受けた者がいたのでしょうか」。神の民の間の分裂は、特に、私たちが御霊に生を受けたと考える他のクリスチャンとの交わりの機会を妨げるような圧力がある場合には、深刻な懸念を抱かなければならない。

もちろん、主の民の間に物理的な分離が必要な場合があるのは、非常に正当な理由かもしれない。とはいえ、私たちが互いをキリストの体における兄弟として認める限りにおいて、セクト主義的な精神が表れてはならない。聖典に認められていない人為的な壁を作り、些細な違いのために、ある兄弟たちが私たちの交わりに値しないと信じるなら、体の一致の

教義に反する精神を行使する危険がある。そのような精神は、私たちの交わりにおいて、神のみこころを受け入れていないことを示すことになる。詩篇133:1-3; エペソ4:1-3,15,16; ピリピ2:3

アイドル

前述と密接に関連しているのは、聖職にある指導者の偶像を作り出す可能性である。黙示録19章10節にはこうある：「私は彼を拝もうとその足もとにひれ伏したが、彼は言った。私は神のしもべであり、あなたがたや、イエスへの信仰を証しする兄弟姉妹と同じです。神だけを礼拝しなさい。預言の本質は、イエスのために明確な証しをすることだからです」。この文脈における使徒ヨハネは、キリストの体の忠実なメンバー、特に私たちが現在生きている時代（

）を代表していると示唆されている。この考えをさらに推し進めると、私たちは、神の真理を私たちに養うために役立っているかもしれない人々を崇拝しないようにと諭されていることになる。私たちは、主の奉仕に従事しているすべての人の忠実な努力に感謝すべきだが、彼らを礼拝の偶像として置いてはならない。ローマ1:25

使徒パウロの言葉にも、これと同じ考えがあるようだ。そのような人はまた、自分が見たことを事細かに語り、霊的でない心によって、くだらない考えを膨らませているのです。"(コロサイ2:18)(コロサイ2:18)

仕える者に過度の敬意を払うことは、私たちが注意すべき不適切な精神であり、クリスチャンに対する神の御心と調和していない。私たちは、神の奉仕のために忠実に働いているすべての人を認め、認めるべきですが、そのような態度を助長すべきではありません。

社会の圧力

世間からの基準に沿った圧力については、私たちの肉にとっては喜ばしいものであっても、神の御心に従うことを妨げるような影響がたくさんあります。このような理由から、私たちはこう読んでいるのです：「地上のことではなく、天国のことに心を向けなさい。あなたがたは死んだのであり、あなたがたの命は神のうちにキリストとともに隠されているのです。」(コロサイ3:2,3)。(コロサイ3:2,3)。文化、レクリエーション、趣味に関する多くの活動は、罪にはならないが、肉にとっては喜ばしいものである。クリスチャンの自由を理解することは、律法

契約のもとでイスラエル民族に与えられたある種の禁止事項とは異なり、新約聖書には信者の行いに関連する多くの「してはならないこと」が見当たらないことを思い起こさせる。したがって、私たちは、神の御心に示された愛の律法と義の律法の精神を、心の中で全うしたいと願うのである。

クリスチャンの自由は、私たちが互いに規則を作ることを許さないが、それはまた、私たちが何の影響も受けずに自由に好きなことをできるという意味でもない。したがって、私たちは、さまざまな追求が肉を満足させるものなのか、それとも犠牲と聖別された生活の精神と調和するものなのかを判断するために、聖句の指針を求めることが不可欠である。個人的に吟味した結果、ある特定の活動が天の御父を称揚し、気高くするものであれば、私たちは可能な限りその活動に参加すべきです。一方、霊的な価値がないと思われる場合は、そのような良いものであっても犠牲の祭壇に供えることを望むかもしれない。

ホーム

神の御心に従う上で、私たちが考慮すべきもう一つの領域は、私たちの住まいについてである。確かに、主の民は皆それぞれ異なる状況にあり、私たちが執り成すことになった財力もかなり異なるかもしれない。あらゆる事業と同様に、この分野でも神の導きを求めるのは各個人の責任である。しかし、世の中では、おしゃれな家を持つことに大きなストレスがかかっていることは事実である。

このような例を挙げればきりがないだろう："主の民もまた、家の外観や大きさに並々ならぬ関心を抱いているのだろうか？"

と。クリスチャン仲間を快適に受け入れたいがために、多大な時間と費用をかけて、現在の住まいを大きく変えなければならないと合理化することは可能である。もちろん、他の兄弟姉妹がこのようなことをしていることを判断する立場にある人は誰もいない。しかし、そのような

関与や活動が、私たちが交わした犠牲の契約から何らかの影響を及ぼすかどうかについては、祈りを持って御父と交わる必要があるかもしれない。

職場で

仕事に関して、私たちの中には、非常に困難で試練的な状況に置かれ、肉体にかなりの不快感をもたらす人がいるかもしれない。その後、非常に有利な仕事の機会が訪れるかもしれないが、それは別のスケジュールで、あるいは遠方で働かなければならないかもしれない。新しい仕事の状況のために、特定のミーティングを定期的に欠席しなければならなくなるかもしれない。このような決断を下す際には、主の御心を求め、それに従う必要がある。肉体が強いられている現在の困難な状況が許されているのは、主が私たちに忍耐と主への信頼を教えるための経験が必要だと知っておられるからではないだろうか。

一方、エチオピアの宦官を証しするためにピリポを砂漠に遣わされたときのように、移動が主の意志である場合もある（使徒8:26-38）。（使徒8:26-38）
このような経験は、もちろんそれぞれの状況によって異なる。聖書は、
、このような堅苦しい規則を定めてはいない。例外は、各自が "自分のものは自分で用意しなさい" ということである。（1テモテ5:8）
これを超えて、各自の状況に当てはまるかもしれな

い答えは、主の近くにいることによつてのみ見つけることができる。

重要な4つのステップ

人生の経験において、神の意志を受け入れるための4つの重要なステップを考えてみよう。

1. 神の御言葉を頻繁に個人的に学ぶ。(2テモテ2:15) 私たちは主の足跡をたどる者であることを約束するので、自分の人生における御父の御心と導きを求め、自分の行いに適用できる神の原則に精通するために、定期的に聖書を調べる時間を見つけることが不可欠である。神が私たちの人生において本当に第一であるならば、私たちは神と交わり、神が私たちに与えたいと望んでおられる力を受け取ることができるように、スケジュールを調整しなければならない。

2. 定期的に出席し、交わりや学びへの参加を通して、地元の教会を支える。私たちは、「集うことをやめないで」という戒めをよく知っています。また、このような集まりは、天の父から教えを受ける重要な手段であると感謝すべきです。(ヘブル10:25) このような場での互いの

結びつきは、とりわけ、私たちが正しく鍛錬されるなら、互いの貢献が互いの霊的な強さとすべての人の啓発をもたらすような相互作用を促進する。私たちは、「あらゆる共同体が供給するものである」と教えられています。そして、私たちの身近な交わりの人々や、機会あるごとに他の兄弟たちと会うとき、私たちは自己高揚の精神から守られるのです。エペソ4:16

3.犠牲の生活を送る。自己犠牲の度合いが高ければ高いほど、敵対者が私たちを陥れようとする貪欲な精神にさらされることが少なくなり、神の御心に従うことが容易になる。「肉の欲、目の欲、生活の高慢

"はすべて、聖霊の影響と、私たちの師が歩まれたように歩もうと努力する天の父への従順によって克服することができ、また克服しなければならない障害である。第一ヨハネ2:16

4.頻繁に、集中して祈る。私たちの生活を個人的に吟味する中で、神の言葉に反して、私たちが心の中に偶像を建てていることに気づいたら、ヨハネによる福音書1章9節のような文章から慰めを得ることができる。「もし私たちが自分の罪を告白するなら、

神は忠実で正しい方ですから、私たちの罪を赦し、すべての不義から私たちをきよめてくださいます。このように、私たちが主に喜ばれないこと、特に主の御心に従わなかったことについて、清めと助けを求めて恵みの御座に行くことは、私たちの特権であることがわかる。さらに、私たちが義と神を喜ばせることに非常に敏感であれば、たとえ軽率な行為に気づいていないときでも、私たちの心の祈りは次のようになる：「あなたのしもべを、故意の罪から守り、彼らが私を支配しないようにしてください。主よ、わたしの力、わたしの贖い主よ。"わたしの口のことば、わたしの心の黙想が、あなたの目になうものとなりますように。詩篇19:13,14

私たちが神の家族の一員として召されたことを考えるとき、私たちは神を畏れ敬うようになり、神を喜ばせ、神を敬い、神の御名を聖別するためなら何でもするようになるはずだ。本当に、"主を敬い恐れることは知恵の初めであり、主の御心を行う者は皆、良い理解と教えを受ける心を持っている"。詩篇11:10